

蜂谷幸雄氏を偲んで 高橋 寿郎

1999年4月15日、本会会員蜂谷幸雄氏が亡くなられた(享年52歳)。私は兵庫昆虫同好会の会員としての氏とお付き合い以外に、10年の間環境調査のお手伝いを、というより一緒に実施して色々とお世話になった関係から此処に私とお付き合いを通じての氏の思い出を偲んでおきたいと思う。

氏と初めて知り合ったのは氏が何処かで兵庫昆虫同好会の存在を知られたことから、1980年頃かと思うが突然電話を頂いて会への入会希望と虫のことを教えて貰いたいというものであった。住所をお聞きすると近い所なので、お教えするというようなことは出来ないが遊びに来ては、というようなことから何度か拙宅に来られた。大変温厚な方で、蝶、中でもナガサキアゲハの仲間を調べているというようなお話であったが、虫歴というか蝶の採集ならびに研究はどうも相当やっておられたような印象を受けた(研究論文の別刷も15編頂いている。業績目録参照)。

1984年、兵庫野鳥の会小林桂助会長、坂根 千副会長から東条町での環境調査をやることになっているが、昆虫部門を引き受けて貰えないかとの依頼を頂いた。その条件として単独は困る、複数人、少なくとも2人でやって貰いたい、その人選は任せるということであった。幸い、蜂谷氏が車を所有、運転も出来るということで、どうだろう手伝って貰えないだろうかとのお話をしたところ、店(玩具商をやっておられた)の休みが毎週木曜日なので、その日でよければお手伝いしますといった気持ちよい返事を頂き、それでは足も出来たし私と同じように虫好きの人であるし、若いことだしこれは大いに助かるとお願いすることにした。

そして、1984年から1993年まで丁度10年間、兵庫県環境科学技術センター、現(財)ひょうご環境創造協会よりの委託の仕事として(当初は兵庫野鳥の会経由であったが5回目ぐらいから直接契約となる)、主として西摂、東播磨地域を中心に時には豊岡、城崎町奈佐路とか揖保郡新宮町福原、牧のようなそこそこ遠方の地での環境調査をやらせて貰った。

昆虫といっても種類が多いので、分担を決めて蜂谷氏は蝶・蛾即ち鱗翅目と蠅とか蜂が好きだったので膜翅類を重点に甲虫等も見つかったら何でもかまわないから採集してくれと頼み、私は甲虫目、半翅目を主体に調査しようと決めて取り組んだ。夜間採集にも行ったりホタルの調査に夜中に出かけたりもした。10年間で147回調査を実施した(全て朝早く出発、夕暮れに帰るといった方法で昼食は私がお茶と

サンドイッチその他パン類を持って行くという方法で実施した。)

2人だけの調査、採集であるから自由に出来、車で行って面白そうだといった地点では止めて調べる、天候など大体天気予報で雨だというような日は避けるようにしたので、現地で雨に出会って困ったというようなことはほとんどなかった。

蜂谷氏は若いし元気である。樹などにも登ってくれるシトラップなども気持ちよく手伝ってくれて助かった。何といても経験者であるから、採集なども上手だし眼が良いので小さいものでも採集をして貰った。

調査に行く時帰る時、自動車の中では色々とお話もあれば世間話もできたがあまり家庭のことなど詳しくお伺いしたことはない。

環境調査の報告書の方は蜂谷氏の担当の部分の報告を頂いて私が一緒にとりまとめて提出するようにした。

1995年1月17日の阪神・淡路大地震では家が倒壊し、建て直されるのに大変ご苦労なさったかと思う。拙宅は半壊で助かったがその年の6月、腹具合が悪くなり入院開腹手術を6月末には受けた。その時もいち早く病院に見舞いに来て下さった。退院後の自宅療養中でもかねてから拙宅の裏にある鳥原貯水池畔に国蝶オオムラサキが多くいるのを調べておられ、写真撮影などもしておられた。今日も見に行ってきました、こんなタマムシが採れましたよ、カミキリも何回か拙宅に採集姿で立ち寄って下さった。早く元気になってまた虫取りに行きましょと励まされており、大いに力づけられたものであったのに、あまりにも突然のこの度の不慮の死、若い方でこれからまだまだ虫とお付き合いをやって頂きたかった方なのに残念です。順序が逆です。言葉もありません。謹んでご冥福を心よりお祈り申し上げたいと思います。

<蜂谷幸雄氏業績目録>

1981

ミヤマカラスの性モザイク個体「表紙の蝶」
ちょうちょう 4(9) : 表紙&2.
"ナガサキアゲハ・阪神間に定着は可能"
ちょうちょう 4(9) : 27-31.

1985

アナンバス諸島産ナガサキアゲハの一新亜種

月刊むし (176) : 2,25.

1986

バンカ島及びピリトン島のナガサキアゲハの分類上の位置と変異について

TSUISO (497) : 309-317.

Great Nicobar のナガサキアゲハ

ちょうちょう 9(2) : 19-28.

グレート・ニコバル島産のナガサキアゲハの1新亜種について

ちょうちょう 9(6) : 23-26.

1987

タンベラン島産ナガサキアゲハ

月刊むし (198) : 2,6.

スマトラのナガサキアゲハの分類上の位置と変異について

TSUISO (544) : 453-464.

カラオ島産ナガサキアゲハの1新亜種について

IWASE (4) : 1-4.

1988

カラスザンショウに吸蜜に訪れた蝶について

きべりはむし 16(2) : 50.

ムナ島産セレスアゲハの1新亜種

月刊むし (206) : 16-17.

1989

ボルネオのナガサキアゲハの分類上の位置と変異について

TSUISO (592) : 141-150.

A New Subspecies of *Papilio memnon* L. from Bunguran Island (Natura Besar), Indonesia.

FUTAO (1) : 2-3,7.

A New Subspecies of *Papilio deiphobus* L. from Obi Island, Indonesia.

FUTAO (3) : 1-2,4-5,pl.1.

1991

Notes on *Papilio memnon* L. from Kangean Islands, Indonesia.

FUTAO (8) : 1-7,pl.1.

1993

A New Subspecies of *Papilio memnon* L. from Babi Island, Indonesia.

FUTAO (12) : 1-5,pl.1.

"追記"

"TSU-I-SO" 第961号(1999年7月22日号)のp.269-270に主筆者西山保典氏により蜂谷幸雄氏の追悼文"虫と散れるか"が掲載されておりました。大変考えさせられる追悼文として拝読いたしました。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

兵庫県職員昆虫研究会のアサギマダラ マーキング放蝶記録 平尾 栄治

1999年10月10日、午前10時45分から12時30分頃にかけて、神戸市北区山田町坂本の帝釈山東尾根(標高490m)にて兵庫県職員昆虫研究会と兵庫県立人と自然の博物館の合同チーム5名により、アサギマダラの移動に関する調査を行うためマーキング放蝶を実施した。捕獲マーキング個体数は♂♀あわせて43個体である。

マーキングの方法は、翅裏面に油性マーカーペンで採集(放蝶)場所、放蝶月日、個体番号を記入した。マーキング内容は次のとおりである。

昆虫研究会; KOBЕ,六甲山,10/10,No.1-25

人と自然の博物館; KOBЕ,人博,中,10/10,No.1-18

なお、マーキング記録と再捕獲内容については、「アサギマダラを調べる会」事務局または大阪市立自然史博物館昆虫研究室に報告する。もし、マーキング個体を採集された方があれば御一報いただければ幸いである。

(HIRAO EIJI 神戸市北区松が枝町3-4-4)

上高地で放蝶された アサギマダラを帝釈山で捕獲 平尾 栄治

1999年10月10日に実施したアサギマダラマーキング調査の下見のため、前日の10月9日に帝釈山を訪れた際、同地でアサギマダラのマーキング個体を再捕獲した。翌日、再放蝶の予定で帝釈山に持参したが、同個体がかかなり弱っていたこともあり、写真を撮り標本として残すことにした。

マーキングの内容は「NAGANO,上高地,No.26」であり、この個体は直線距離にして約600kmをはるばる移動してきたことになる。

(HIRAO EIJI 神戸市北区松が枝町3-4-4)